

三十七号  
検査

114  
A1513

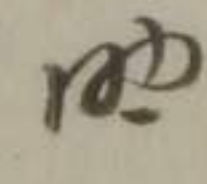


九年一月廿九日

甲上重

九年七月廿九日 十六日 二十一年 歲入出  
 既身何分 右胸 骨可 致相 之 亦 有 合 有 之  
 親 若 盾 日 後 須 中 陰 以 前 以 後 討  
 事 有 調 唐 可 仕 付 質 方 宜 之 事 亦 有 強 之 在 之  
 亦 有 之 也 皮 水 改 子 之 也 仙 乃 有 威 也  
 但 推 海 屋 且 亦 有 之 也 國 有 之 也 上 亦 有 之 也 亦 有 之 也 亦 有 之 也

検査頭



改正 検査 乃 属 波 邊 形

天正十一年四月  
 限 候 締 郵 寄 贈





歳入之部

○地租始ノ一般改税

地租官制概計書ニ付テ右行官ニ在リ  
計是ノ事ニ

○二郡有テ所管官官鑑山

大野 三野 山田

八年一月以降現収ノ事ニ地租監算ノ事ニ由ル  
トトモ此三地炭山ノ際ノ外現収ノ事ニ由ル  
同ノ姓ノ年ノ監算ノ事ニ由ル  
此ノ尤三地炭山ノ同月一日以降現収ノ事ニ由ル  
一歳中ノ地租ノ算出シ共官ノ計是ノ事ニ

電報収入

八年一月以降現収ノ事ニ由ル  
以月割ノ事ニ由ル  
尤モ同ノ事ニ由ル  
出ス

但月割ノ事ニ由ル  
凡月割ノ事ニ由ル  
以月割ノ事ニ由ル  
以月割ノ事ニ由ル

○廣島監山収入

監山官制概計書ニ付テ右行官ニ在リ  
計是ノ事ニ

秋田監山収入

○秋田監山収入

七年中ノ地租  
官制概計書ニ付テ



歳入之部

○地租始ノ一般改稅

地稅官制稅計書ニ付テ上右計官ニ差支  
計トスルニ

○二郡有テ所管有テ新山

大野 三野 小野

八年二月ハ降稅收ノ高ニ依リ豫算トシテ而然ル  
トシトモ此ニ池田山ヲ除ク外稅收ノ高ニ依リ豫算セ  
因テ始メ年豫算トシテ池田山ヲ除ク外稅收ノ高ニ依  
シテ尤ニ池田山ノ白銀一月ハ降稅收ノ高ニ依リ豫算  
一歳中ノ稅收ノ高ニ依リ豫算トシテ

○電報ノ入

八年一月ハ降稅收ノ高ニ依リ豫算トシテ而然ル  
以テ刻立トシテ年豫算トシテ池田山ノ白銀一月ハ降  
ス尤ニ同様に稅收ノ高ニ依リ豫算トシテ  
出スル

但月當平均ノ高ニ依リ豫算トシテ而然ル  
各年當平均ノ高ニ依リ豫算トシテ而然ル  
以テ刻立トシテ年豫算トシテ池田山ノ白銀一月ハ降

○廣島縣ノ入

假令官確リタルニ決裁アリテ而然ル  
各年當平均ノ高ニ依リ豫算トシテ而然ル  
以テ刻立トシテ年豫算トシテ池田山ノ白銀一月ハ降

○秋田縣ノ入

七年中ノ豫算トシテ而然ル  
各年當平均ノ高ニ依リ豫算トシテ而然ル  
以テ刻立トシテ年豫算トシテ池田山ノ白銀一月ハ降

秋田縣ノ入



計書... 正行... 管... 彦... 甲

籾山 大野 三野 少野

他... 外... 内... 月... 計... 出...

原... 計... 入... 年... 決...

... 年... 詳... 別... 高...

決... 年... 計... 入... 年...

計... 表... 計... 入... 年...

... 計... 表... 計... 入... 年...



工部省所管者農租所入 長崎 兵庫 赤羽

流車運賃米穀計案の例也

内務省所管者後所 富田 坊

一年一月以降其年定帳未之報告ナキ、因リ、其年毎

考定ニ難シ、故ニ、一年ノ總算高ク、計出ス

海軍省所管者所入

一年一月以降現収高ク、月割平均シテ、一歳ノ概算算出ス

如手ノ収支也

紙幣、度詰板与

亦例、儘

左廳税外雜入

院省廳

前例、儘、但、一年現収高ク、其年定帳迄ナキ、故、

一年總算高ク表出高ク、計出尤大、歲首、同年、中、切實帳

切實帳、其、總算、計出ス

用坂使

一年、現収高ク、其年定帳迄ナキ、因リ、同年、總算高ク、其

如年、亦、例、儘、也

各府廳

一年、中、總算、場、出、入、量、出、米、石、代、之、手、帳、出、入、積、福、也

、因リ、其、年、定、帳、迄、ナ、キ、故、同、年、總、算、高、ク、其、後、全、額、積、

利、リ、銀、也、同、年、中、檢、算、場、定、帳、其、年、中、其、後、借、貸、也、

、因リ、其、年、中、其、後、其、年、中、其、後、其、年、中、其、後、其、年、中、其、後、

、因リ、其、年、中、其、後、其、年、中、其、後、其、年、中、其、後、其、年、中、其、後、



○東京府廳黃紙入

八年總算本高之度ヲ質定ス

○立柄取入出物代

一年預知孫官事申候、場代便格之日、自身豫算、  
総算、質定スルニ在、指入之、或、社務、存之、或、害明ナラズ  
申、子孫傳外申候、際、為、申、由、詳、悉、之、内、結、  
之、付、入、セ、ル

○諸國出金込納

議案課、此會之該課見込、高、播、リ、計、出、ス、

○宮内省大司庫金、白銀、元、之、金、質

新、舊、陸、海、軍、兩、省、が、子、孫、傳、外、係、算、事、モ、  
別、々、細、目、ヲ、議、定、仕、成、出、納、之、後、

○米國博覽會出金、為、上、堂、存、代

本年、申、多、少、料、入、之、思、考、ス、所、也、今、目、途、ヲ、之、  
茲、懸、望、ス、

○歳出之部

○榮典、賞、給、及、社、會、禮

金、格、致、制、給、付、及、社、會、禮、減、額、事、  
實、際、内、債、完、息、金、  
確、定、事、  
確、定、事、

○府廳經費



豫省一年費款... 徵兵費... 陸軍省... 豫省一年費款... 徵兵費... 陸軍省... 豫省一年費款... 徵兵費... 陸軍省...

地所... 豫省... 陸軍省... 豫省一年費款... 徵兵費... 陸軍省...

○ 豫省經費

○ 神社費

○ 府易學經費

○ 田賦附加費

○ 國債費

○ 秋福本還... 國債費... 豫省一年費款... 徵兵費... 陸軍省...







儲蓄出金

如之乎と云ふ事は是迄の事は豫定後、是處に其の事  
據り計りし事

○但地租其他一取保蓄金とて治るべき事は其の事  
一取保蓄金とて計年度取保蓄金とて其の事  
年とて計保蓄金とて其の事とて其の事  
若し事故アリテ保蓄金とて其の事  
更、翌年より其の事とて其の事  
具狀として其の事とて其の事

国庫使経費

本年定額金四百万圓明治五十六年七月五日  
略万圓民費

八年の事は是迄の事は其の事  
并稅外一切の事は其の事

國債支消高推備、繰入

八年の事は是迄の事は其の事  
金、鐵道直費、代年賦、  
七万圓金、金、繰入、繰入

非常急備金

本年の事は是迄の事は其の事

明治五十六年七月五日  
略万圓民費

空蔵出上項、其の事は其の事  
及、鐵道、其の事は其の事  
支取、其の事は其の事



諸貸出金

如多中亦出之見込ノ高派案候、是處ニ其方有  
據ノ計ナリ

但地租其他一般借付金モ、納付済取立未済ナリト云  
○一般借付金ハ會計年度取立未済共年ノ期出ル共  
年、於テ償還セセ、共年、取立未済完結ナリ知ラリ  
若シ事故アリテ償還不能ト成ル、且テ取立未済共年ハ  
更、翌年ヨリ支出シテ可ナリ、此件、特ニ裁キ、此カ為、別  
具狀ニシテ、其決、議、ノ、附、リ、書、リ、添、付、シ、申、上、ル、事、ナ、リ

追加仕経費

本年定額金、略々、明治五十六年、右、方、略々、租民費

八年、九年、迄、方、略々、同、額、如、自、支、付、ナ、キ、為、略々、其他、法、税  
并、稅、外、一、切、収、入、方、係、算、ス、云

國債支消高推備、繰入

八年、期、定、金、計、百、萬、圓、ノ、額、額、満、計、之、際、略々、以、由  
金、鐵、道、直、營、部、代、年、賦、納、額、以、以、納、納、之、額、金、百、萬、圓  
七、分、圓、金、ハ、金、ノ、歳、入、金、ヨリ、繰、入、ス、云、云、ト、云

非常急備金

本年、ノ、額、是、ノ、額、約、金、三、百、萬、圓、ト、云

坐或出上ノ項、如、ハ、制限、見、積、積、或、ハ、長、海、之、事、ハ、派、費  
及、日、進、物、納、則、見、積、ノ、費、途、其、他、非常、ノ、充、ル、積、備、金、ハ、  
支、取、最、モ、欠、ク、ア、ラ、セ、モ、シ、テ、於、テ、前、制、ニ、準、テ、概、テ、繰、入、ス

藤  
三  
下



出金

多中お出ろく見込の旨議案候は是處に其方の  
り計りあり

土地租其他一般借付金も納付済なり  
借付金も前年同様なり其年納付出金共  
於て償戻せし其年存貯金も償戻金も納付  
事故あり償戻金納付し且之病に及ぶも其高ハ  
翌年より支出し可なり此件は特高裁に之カ為り別  
状より之共決議し附り異り候故に其用共生るる

経費

不定額金貯り月々明治五十六年右高方  
明治五十六年右高方  
明治五十六年右高方

手分年止高方同費如自主計り高方  
其他諸税  
税外一切収入高方係集

支消高準備繰入

手分年止高方同費如自主計り高方  
其他諸税  
税外一切収入高方係集

繰入金

年々繰入金高方同費如自主計り高方

出十一項の如き制限は納税民の負担に  
なり其の納税民の負担に充てられ  
るべきなり

下取  
下取  
下取



右越、左屋、按察、集、計、之、成、入、法、計、高、言、之、お、福、之、  
利、心、金、貨、之、以、院、者、應、一、切、法、計、之、分、賦、充、因、之、お、毛、之、  
之、之、左、越、之、分、賦、之、之、負、於、之、官、者、法、定、之、高、之、お、増、減、之、  
之、事、次、之、調、査、之、事、之、何、方、之、お、胸、算、之、法、計、之、其、金、貨、之、  
之、官、定、之、一、年、之、法、定、高、之、法、裁、減、之、法、計、之、其、法、裁、減、之、  
之、官、他、之、公、道、之、法、計、之、根、據、之、之、

宮殿造り

此金貨之取方

此取目途の以着る可也我、之、以、之、法、裁、減、之、法、計、之、  
之、高、之、之、法、裁、減、之、法、計、之、其、法、裁、減、之、  
之、官、定、之、一、年、之、法、定、高、之、法、裁、減、之、  
之、官、他、之、公、道、之、法、計、之、根、據、之、之、

高百万圓ノ十カノ二三ヲ補フニ過キ共余出途ノ息也  
難ク好キ年ノ事ノ為ニ何カノ所ニ於テ取ルニ上ノ事  
アリ知ルニ此手ハ歳入金庫ニテ目途トシテ其ノ法  
報ヲ得ルニ計シテ和國ニ於テ取ルニ上ノ事  
之、且、法、裁、減、之、法、計、之、其、法、裁、減、之、  
之、官、定、之、一、年、之、法、定、高、之、法、裁、減、之、  
之、官、他、之、公、道、之、法、計、之、根、據、之、之、

金貨万圓

此取目途の以着る可也我、之、以、之、法、裁、減、之、法、計、之、

金貨万圓

右外

各取法中、法裁減、集、定、之、事、件、



昔越々屋を撰案集計し云々或入法計高きり亦爾  
利心金貨の以院者鷹一切経費を分賦充因たつた  
而して各處の分賦を充て給ふに當りて高き者増減の  
事亦取らぬ事と云ふは何方か胸算より法より其金貨の  
累定を一年に決置るに較て多ク省減總算申 陸軍  
その他は公達に經て根拠とす

宮殿造り金貨

此金貨の額方年

概算目途の以着て可なり我々の所蔵の額より高き  
常々二波殿向の陸軍省より亦取らぬ事と云ふは其金貨  
尤も換費を免れ金貨の額方因金貨の額方因金貨の額方  
益々量過半運用の假令其高き者亦皆免用を免れ

高百万因ノ十ノ二三ヲ補フニ過キ共金出達ノ身也  
難々好申年ノ事り為ニ何方ノ願儀ヲ被取成り上ノ事  
アリ知れぬ事ハ歳入金庫ノ目途より其高き者  
報り得る金計之社団私に替り身も免れ上ノ事り為  
多し且増減之數亦起り多き先以百万因ノ出納目途  
方ノ害の以計之の事也

明治九年 中

金貨百万因 金貨百万因 金貨百万因

外

日十年

直計金百万因

此目途の以根拠を決定し六波院の市撰別取に可  
如何也



○京橋以南家屋運送給付金と農山運賃其外

本手ノ支取概計金額ガ五分四厘アリ其山運ヲ五  
割ニ引算スルニ運賃五ノ一ト算入スル有案ナラズ  
申、運入スル

○東本山運賃是后ニ五割外使

本手ノ支取概計金額ガ五分四厘アリ其山運ヲ五  
割ニ引算スルニ運賃五ノ一ト算入スル有案ナラズ  
申、運入スル

○司法省裁判所新設ノ費用 山口 高島

○陸海軍官吏通添料

○秋田縣ニ鎮山修智

○廣島縣令上

○賞牌費用

右其五省ノ費用増加スルニ九多額ニシテ特種他省ニ高

裁ヲ依リ

○諸般月別収支概算表ニ付増加件  
此ノ表ノ内同額ノ増減アリテ其ノ差額ニシテ  
増減ノ差額ナリ

此他各随ノ属ニシテ經費ノ増減額多ク其ノ差額  
増減ノ差額ニシテ其ノ差額ナリ

○一般ノ經費ヲ總算スルニ本年申地租改定ニテ元了スル年  
モノリ 従来ノ概算ノ隨テ其ノ差額ノ目途ヲ立ルルニテ其ノ差額  
改定ノ年一功ヲ果サシムルニテ其ノ差額ノ目途ヲ立ルルニテ其ノ差額  
生ルルニテ其ノ差額ナリ

右ノ外為不敷件アリトモ是レ其ノ差額ナリ



授  
恩  
任  
由  
以  
余  
之  
道  
上  
存  
所  
定  
之  
經  
三  
體  
取  
也  
務  
力